



留学生が集まるグループでのピクニック

私が入学当初からやりたかったこと。それは海外留学でした。なぜ海外留学したかったかというと、中学時代から英語が好きで、大学生になつたら海外で英語を使ったコミュニケーションをしてみたいという気持ちがあったからでした。しかし、1年次は実力が足りず、交換留学に挑戦する切符すら手に入れることができませんでした。交換留学に必要な外部英語検定試験のスコアが基準に達していなかったのです。海外留学に対するモチベーションが下が



文学部生のリアルな学生生活の様子を掲載し、ご父母の皆さまに文学部生の充実したキャンパスライフの風景、また文学部ならではの取り組み等の情報を発信いたします。

はじめに

学生にとつての大学とは、どのような場所でしょうか。今の私には、大学はやりたいことを実現させる場所であり、出会いの連続を通じてともに生きていく大切さを学ぶ場所だと思っています。なぜこのように思ったのか、私のキャンパスライフを通じて少しでも感じ取っていただければうれしいです。

海外留学への熱い思い

りかけて迎えた2年次、「グローバル・スタディーズ」に参加したことで、海外留学への思いが再び燃え上がりました。

グローバル・スタディーズ（以下GS）とは、海外でフィールドワークや文化交流、調査発表などを行う文学部の授業科目です。私は2年次に、2回のGSに参加しました。1回目のハワイでは、日英語比較や第二言語習得に関する講演、学生交流を行いました。2回目のタイでは、英語学に関する発表会を行い、遺跡やスラム街を訪問しました。私は英語学、特に若林先生が研究されている言語習得の分野に興味がありました。その若林先生がGSを担当されるということで、思い切つて参加を決めたのです。

GSに行くことで、初めて英語圏で



タイ、エメラルド寺院の前で

Carrying out one's original intention ～海外留学に挑戦したキャンパスライフ～

すがはら なおみ
菅原 直弥

文学部人文社会学科英語文学文化専攻5年
神奈川県立平塚江南高校出身



留学経験を生かして教員をめざす

英語を使う機会に恵まれました。そこで、自分の英語が通じる、通じないところ両方を理解することができました。悔しさもありましたが、現地の人々との交流の楽しさのほうに勝っていたことを、今でも覚えています。帰国後は、交換留学を絶対に実現させたいと思いい、外部英語検定の試験対策に励みました。その結果、3年次の秋からの交換留学（アメリカ・東テネシー州立大学）を勝ち取りました。

留学経験を基に将来の夢を描く

そして、念願だった1年間の交換留学がスタートしました。留学生活で一番印象的だったことは、「出会いの連続」です。アメリカ人をはじめとする世界中の人々と出会うことができた反面、カルチャーショックによってストレスや疲労を感じることもありました。しかし、現地で出会った友人と面白い切り楽しんだ充実感や授業での達成感、新しい場所を訪れる高揚感などによって、苦境を乗り越えることができました。それは、自分一人ではなく、この留学生活で出会った数多くの人が支えてくれたからこそ、克服することができたのだと思います。まさに「ともに生きる」大切さを、留学生活のな

かで学びました。

アメリカでの留学を終えた4年次の春休み、帰国後から続けた研究の成果を英語で発表したいと思い、タイのGSに参加しました。その際、異文化交流のために現地の学校を訪問したときのことです。そこでは現地の生徒たちの学びに対する意欲や、日本人に対する好奇心を強く感じることができました。そのとき、私は将来教員になりたいと強く思うと同時に、教員として世界の学校と日本の学校をマッチングできる仕組みを作りたいという夢を抱きました。

現在は、教員になるための勉強に励んでいます。夢を実現した暁には、英語という文化や国境を越えたツールを手に入れ、将来どんな国や地域においても活躍できる人材の育成に貢献したいと考えています。



休日を利用してのハイキング

グローバルを身近に

文学部事務室

熊谷 穰くまがい じょうたか



近

年、グローバル化という言葉が飛び交い、誰もが留学したいと思っているのではないのでしょうか。しかしながら、語学力や成績、金銭面などの不安から、留学のハードルは未だ高いのが現状です。

そこで文学部では、誰もが参加できる海外プログラム「グローバル・スタディーズ」を開講しています。このプログラムは3日間〜1週間という短い期間で実施する海外プログラムで、韓国や香港、ベトナム、ハワイ、デンマークなど、さまざまな国で実施されています。

プログラム内容は、渡航先の学生との交流や、フィールドワーク、実態調査など多岐にわたります。教員が引率するため、初めて海外に行く学生でも安心できますし、かつ高度な教育活動となっていますので、気

軽に海外に触れることが可能です。ぜひグローバルを身近に感じてみてはいかがでしょうか。

〈2017年度開催プログラム〉

香港・香港での日本文化（食文化、ポップカルチャー）の調査・理解
ベトナム・ベトナムを例とした新興国におけるIT産業の視察調査
フィリピン…フィリピンの社会問題

（人権、貧困、格差、女性、子ども、紛争、マイノリティなど）に対する援助救済活動のあり方の研究
ハワイ…日本人移民・日系人に関する歴史経験、学校現場で活用できるグローバル教育の教材作り

韓国…韓国・日本の学生同士による、労働・経済・家族・教育・文化・宗教・政治などといったテーマにおける社会的なディベート
（春休み期間中にも複数開講予定、9月中旬ごろ募集開始）